

民・国連携のさきがけ「八川国有林」

島根森林管理署

多くの神話が残る出雲の国。その中に登場する「ヤマタノオロチ」をイメージして作られた二重ループ橋の近く、島根県仁多郡奥出雲町八川地区に八川国有林はあります。

五月一八日にこの地において近畿中国森林管理局管内では初めてとなる民有林・国有林が連携した森林施業団地の設定に係わる協定の調印式が、島根森林管理署長、島根県東部農林振興センター所長、緑資源機構松江水源林整備事務所長、仁多郡森林組合代表理事組合長及び立会人の地元奥出雲町長の間で行われました。

八川国有林一〇四五林班の九四haは、植えてから五〇年前後の主にスギ、ヒノキの人工林となっています。周囲の緑資源機構造林地一四二ha、県行造林地八ha、私有林五四haを含む計二九八haの区域が対象となります。

具体的には、締結した八川地域

森林整備推進協定に基づき、平成一九年度から五年間の実施計画を策定し、計一二四haの区域で間伐等の森林施業を共同実施するほか、効率的な作業路網の配置、木材の安定供給等にも併せて取り組むこととしています。



本年度国有林としては、一、二九六mの作業道を開設し、一・一七haの区域で、水源かん養機能を発揮させるための間伐を実施し



森林整備推進協定区域図

ます。

伐採した木材は需要者と取引協定を締結し、計画的な販売を行います。このようなシステムは、木材産業の育成にも貢献することになります。

また、木材を有効活用することは、地球温暖化防止のための二酸化炭素の固定にも繋がります。

施業団地を取り囲む様にして



八川国有林の人工林

R木次線があります。特に四月から一月までの土・日・祝日等の期間には、トロッコ列車「奥出雲おちち号」が運行されます。広島県との県境部に位置していることから、急な標高差を乗り越えるために、全国的にも珍しい三段式スリッチバックで運行されています。

出雲坂根駅の構内には、今回設定した施業団地を水源とする湧き水があります。

昔、寿命一〇〇年を越えたと思われる古狸がこの水を好んで飲用していたことから「延命水」と名付けられたと言われています。

新緑から紅葉までの季節によって変化する車窓からの景色等を目当てに関西・山陽方面からも多くの観光客の方が訪れます。皆様も一度、八川の地をお訪ね下さい。



JR出雲坂根駅構内に湧き出る「延命水」ほのかに甘く感じる。

千六九〇・〇八七三
島根県松江市内中原町二〇七
TEL 〇五〇・三一六〇・六一三〇
FAX 〇八五二・二二・三九六四
<http://www.kinki.kokuyur.in.go.jp/shimane/>